

令和6年度第1回柏市学校教育情報化有識者会議会議録

1 開催日時

令和6年7月24日（水）

午前10時から午後12時4分まで

2 開催場所

柏市役所沼南庁舎5階 501会議室

3 出席者

(1) 委員

毛利座長，小田委員，佐和委員，逆井委員，左口委員，堀内委員

(2) 事務局

平野指導課長，宮本副参事，荒川統括リーダー，加藤副主幹，丸山副主幹，石塚副主幹，福西副主幹，湯浅主査，白石主事，田中 IT 教育支援アドバイザー

4 協議内容

(1) 計画策定の趣旨，目指す姿，計画の位置付け，計画期間について

○毛利座長

目指す姿について令和11年までの計画とするのであれば，今の子供たちが大人になり活躍する2040年代を見据えて学校の目指す姿だけではなく，今の子供たちが将来，Society 5.0時代になった時に主体的に活躍できるような場面を想定することが必要なかと思っています。そういうことも踏まえて御意見をいただければと思います。

○佐和委員

GIGAスクール構想により，全国のICT環境というのは水準が揃ったわけです。だけどそれ以前はかなり柏市は，アドバンテージを持っていてその中で先進的なことに力を入れていたはずです。

この資料の中に，昭和62年に田中北小学校にコンピューターが入ったという話があって，これはまさに日本の中で先駆けてそういうことに力を入れたわけです。

自分もかつて田中北小学校に在籍したことがあったので，その当時の研究紀要には「溢れる情報をいかに選択し自分のものとし，さらに働きかけていくためには，コンピューターを使いこなすことがこれからの人間にとって不可欠の能力となっていく。そのために小学校の段階から，その基礎となる能力を育てておく必要がある。」ということを明言し予測しているわけです。

当時の田中北小学校でさえ小学校教育というレベルではなくて，これから人間として必要なものということを考え，そういったことを書いているのだとすると，座長がおっしゃったように10年後を見据えた計画の策定というのが不可欠なのではないかと考えます。

○小田委員

私も同様に大切な観点だなというふうに思っております。やはりICTというの

はどんどん変化していくもので、今ある環境というのが10年後あるとは限らないということもあります。

そういう環境の中で移り行くICTをそれでも使いこなしながら、教育の中で活用してゆく児童生徒とか教員の層が増えると、さらに良いのではないかなというふうに思っております。

○堀内委員

2040年代を見据えてということで、まさしくその通りだと思います。

休み時間等に使っている子供たちもいるのですが、どうしてもゲーム的要素があるものに行ってしまう。

そういう使い方の良いのかなと思うところがある中で、果たして学校側でどう進めていけば良いのかというところが、ちょっと私も見えてこない部分もあります。

将来の姿なども見据えながら考えていくというのは、大事なのかなと思います。

○左口委員

まず目指す姿を今の児童や教員だけではなく、その子たちが育った将来の姿という形で設定をしておいてその中で教員、学校で何ができるかという書き方にした方が、いろいろ対応もしやすくなるのではないかと思います。

求める姿がこれだから学校や教員はこういうことをしていくというような、そういう書き方にできるとこの部分の目標設定がわかりやすくなるのかと感じたので、まず大きな将来どういう人を育てていきたいかという部分を明記すると、ここがよりじっくりくるのかなという印象は受けました。

○逆井委員

ICTは、私たちが生きていく上であるいは学び続けていく上での道具の一つになっていくのかなというふうに思います。

ICT機器が導入されたと思ったら、今は、もう生成AIがという時代で、ICTの中身もどんどん新しく変化をしていって、一つ一つに対応していかなきゃいけないのかなというふうに思います。

そういったICTを使いながら私たち、子供たちが物事を考えたりとかそれをどういうふうに利活用して、人生や学習に活かしていくのかということが大事かなというふうに考えて、当然生き方、自分の生活学習にどう活かして学びを続けていくかというそういう視点が大事だなと考えております。

○毛利座長

佐和委員からもお話がありましたけども、これからICTを推進する自治体であればこの目指す姿は良いのかもかもしれません。

ここに書いてあるものが、学校を良くするとか授業を良くするにはどうしたら良いかという目指す姿になっているという気がするのですね。

この柏市というのは、本当にICT教育のパイオニアであり今、日本中でも人が集まっているすごく活気のある未来に向かっていく町というイメージがあるので、ちょっと書き方が学習指導要領っぽいと言いますか、本当に世界が一目置くような町なんだ、それを目指すんだぐらいの、また、その町に住んでいる子供達は、それに恩恵を受けるのではなくて、自分で作り上げるというものになっていくとすごく

良いのかなと思います。

(2) ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成について

○毛利座長

子供たちへのアンケートの取り方は、紙で取っていますかそれともタブレットで取っていますか。

○事務局

Google Formsを使って小中学校の全児童・生徒を対象に取っています。

○小田委員

この2ページ目にPCタブレットなどのICT機器の利用に関する結果があるのですが、別の資料にある「柏市ICT利活用調査」では、例えば小学校では、ほぼ毎日使用している、毎時間利用しているの合計が70%近くになっていたのですが、こちらの資料では22.9%になっています。

柏市の中での調査としては、かなりの割合が使っているという状況があるようなのですが、もしかしたらどちらかの調査が実態をうまく反映しきれていないという可能性もあるのかなと感じましたが、その辺り何か考えていることがあれば教えていただければ幸いです。

○事務局

アンケートの種別としまして、柏市独自に行っております「ICT利活用調査」が授業を行っている教員を対象にしておりまして、計画に載せている「全国学力学習状況調査」は、児童・生徒が回答したというところで教員が考えている使い方と、子供たちが考えている使い方に違いがあるのかなと捉えているところです。

○佐和委員

表1を見ると小学校、中学校ともに令和4年から令和5年にかけてほぼ毎日の利用率が下がっています。

令和3年は使い始め、GIGAスクールのスタートの年なので、慣れるまではというのでわかる気がするのですが、令和4年度で順調に伸びてきたものが令和5年度の調査では下がるという理由がよくわからないのです。

他にもよく出てくる全国とほぼ同等と書かれている表記がありますよね。学力テストなどもそうなのですが柏市ぐらいの規模があれば、全国とほぼ同等ぐらいになりやすいですよね。だけど、個々の学校や学級を見ると、大きな差が出ているはずなんですね。その辺りを、分析する必要があるように感じたのですがいかがでしょうか。

○事務局

やはり学校であったりあるいは教員であったりとか、そこにどうしても差が生じてしまっているという現状はあるかと思しますので、教員に大きな負担をかけないような形で調査を実施しまして、現状分析の方を行っていきたいと考えております。

○毛利座長

令和5年の4月にコロナが明けて、オンラインが減っているところもあるのかもしれませんが、やはり全国的に自治体間格差も大きくなっているし、学校間格差も大きくなっていて、やはり校長先生の御認識によって、コロナが明けたから、パソコンよりも体験をという感じで、減ったりすることもあるかもしれませんが、反対にこれからもっと協働的な学びに使っていくというところもあるかなと思います。

○小田委員

11ページにKPIが設定されているかと思います。

その中でKPIに設定されているものが、その前に示されている基本的な方針の中の主に1と2に関することだと思っているのですが、その他の項目3, 4, 5, 6これについてもある程度、目標数値のようなものを設定して見ていく必要があるのではないのかというふうに感じました。

もし何かその辺りで、こういうことを見ていこうとしているとか、何か考えていることがあれば教えていただければ幸いです。

○事務局

目標の数値というところなのですが、具体的に事務局としても決めかねている部分がございます、もし、この場で御意見いただけるようであれば頂戴したいと考えております。

○毛利座長

学校でも色々なアンケートを取っていると思うのですが、大体、この辺りを達成すれば良いという水準は、もちろん100%が良いのですが、いかがでしょうか。

○逆井委員

すべての子供にということが合言葉になるので、数値目標を設定するなら100%というのが当然出ている数字かなと思いますけれども、色々な目標を立ててやっけていく中で、8割ぐらいがおおよその目標になっていることが多いかなと感じています。

そこをどう位置付けられるかが難しいですね。100%を目指しながら、大体80%ぐらいできていけばよしとしているのが、私たちの常なのかなというところでは。

○左口委員

高校であってもやはり全生徒100%を目標としているのであれば、やはり8割程度達成できていることを基準として考えることが多いと思います。

8割を目標にするのであれば6割程度できていけばという時もあるかとは思いますが、目標値を100%に設定していくのであれば、達成の度合いとしては8割程度という形が多いかと思います。

○堀内委員

私はこれまでの先生方からも出てきたように、100%の方が良いのでしょうかけれども、80%から90%というところが達成できれば良いのかなと思います。

あとは、学年によって内容が違うので、その学年ごとという視点も必要かなと思います。

○毛利座長

事務局に質問ですが、KPIにある質問は今まで取ったことがあるのですか。

○事務局

「生活学習意識調査」の中で似たような表現では、今までも取っているのですがけれども、この計画に基づいてということでは、表現が少し変わってくると思いますので新たに作っていきたいと考えています。

○毛利座長

学校にいる時に「90%の子供たちは、やる気が高まっています。」と言ったら「10%の子供はできてないってことですよね。」と言われたことがあって、同じようなアンケートでも今60%だったとしたら、例えば来年からは2割増しの72%を目標にしますと前回と比べて何%増加したとか、そういう測り方だと定量的かなと思います。

あと少し気になるのが「日常的にICTを活用して学びの質を高めている児童・生徒の割合」というのが、この計画の目標で良いのでしょうかというのが素朴な疑問です。

先ほども目指す姿とありましたが学びの質が高まっていればそれで良いのか、目指す児童・生徒像が変わればこのKGIも質問も変わるのかなという気がするのですね。

もっと自己肯定感が高くなるとか、あるいは、自分で調べたいという学習がたくさんできていますかとか、2040年代、Society 5.0時代に子供たちに身につけてほしい能力が達成していますかというふうにならないと、何となくコンピューターが使えるれば良いという感じがするのですが、その辺りどうでしょう。

○佐和委員

学びの質というイメージが多分、教科学習ベースという感じがして、知識技能のようなところをどうしても思われがちなのだろうかなと思います。

これから目指すとすると学び方を身につけていくとかそういうところが、多分中心になっていくのだと思うのですがけれども、その学び方を身につけた児童の姿というのは、どういう姿なんだろうかと。今、毛利座長がおっしゃったように、主体的であったり、自己肯定感が高まっているとかですね、その辺りを整理していく必要があるのかなというふうに思っています。

本校は創造性を育む学びというのを主題にしている、最終的な姿は、クリエイティブ・コンフィデンスを身につけた子供と位置付けたんです。

創造性に対する自信を子供が持ったのかどうかということを目指として、そのための授業を組んだり、そのための学び方を身につけていくということをしていて、そこを大事にしています。

この後も出てきていますが、どうしても国とか教育委員会が出す文章は、どれもこれも盛り込まなければならないのだけれども、先ほど最初の段階から何を大事にしていくのかということをごここで明らかにしていくと、このアンケートももう少し揉みようがあるのだろうかという感じがしました。

○小田委員

今の佐和委員のお話を聞いてこれは、初等中等教育よりも高等教育の大学生の話ですけれども、AIとかICTのようなものを活用していないと例えば生成AIで出力されたものをそのままコピーして使ってしまう。

あとはそれを頼ってしまうというのは比較的、そこまでICTを使っていなかったりとか、身につけていない学生に多いのかなというふうに思っています。

逆によく使っている学生はこういう状況だと出力結果はうまく使えないとか、結構分析的に見ているような観点もあります。

やはり制限するというよりもうまく使いながらICT、生成AIなどのメリット、デメリットを見いだしていく、かつそれを例えばICTを使ってゲームしてしまうとかではなく、ICTを自分の学習のために使っていくという学び方にうまくつなげていくことが必要なのかなと委員の方のお話を聞いていて、自分の体験とあわせてすごく実感をしているところです。

そのような観点がうまく盛り込めてICTを単純に消費するのではなく、自分の学びに上手く活用していけるような児童・生徒のようなことが、うまく盛り込めれば良いのかなというふうにお話を聞いていて思いました。

○毛利座長

特別支援教育におけるICT活用の充実とありますけれども、堀内委員いかがでしょうか。

○堀内委員

発達障害のあるお子さんは、本当にICTをサクサクと活用して良い学びができているのかなと思います。

本校の方でも自立活動にICTを取り入れながら、子供たちが行っているような現状もあります。

あとは授業中に端末を使っているのですが、保管庫から持ってきたり、また戻したりというのが先生たちの方も大変で、そういった使い勝手のようなところも考えていくと活用にも繋がっていくと思います。

○毛利座長

先日、東京大学の障害児教育の先生とお話した時に、障害のあるお子さんこそICTは、生きるための武器になるから、単なる授業を学ぶだけというより、生きるために必要なツールなのですよね。

例えば以前に赴任していた学校で、識字障害のある生徒が書くことができないので、テストを受けられないということがあったのですが、パソコンに打てばできるというので、回答欄なんか気にしないでただ回答を打ってもらおうというふうにしたらその子は、テストの時も休まずに受けられるようになった。

あとは、障害の程度で読めないけど聞けばわかるという子には、テストも読み上

げるようにしたりとか、今デジタル教科書は読み上げることができるようになって
いるので。

だから、何か通り一遍の書き方というよりも本当に特別支援の子たちにとって支
援をしてあげるためのものではなく、もしかしたら、特別支援の配慮をしなくても
よい子よりも、すぐれた能力を発揮できるツールになるというような書きぶりだと
これからダイバーシティを標榜する自治体としては、良いのかなと思います。

○左口委員

障害のある生徒に対しては、今おっしゃったように能力を発揮できるツールにな
るのではないかというのは、すごく感じる部分があります。

入試に関しては、識字障害の子に対する文字の拡大であるとかそういったもの
には対応してはいるのですがなかなかPCの持ち込みまでは、踏み込めていない状況
です。

学校としては、先ほどあったように将来、生きていく上で身につけていくもの
として自分の能力を発揮できるような教育をしていくことが、ベストだと考えてい
るので、ICT機器などを使って今までできなかった部分が表現できるようになるの
かなと思います。

それから、16ページにある高校のところで、情報1という科目が必須履修科目
になり令和7年度の共通テストから入試科目として入ってくるので、本校の方
でも、基本的には学習指導要領に則って進めているところです。

今年度実施される共通テストを受けてその辺りの工夫は、必要になってくると思
うのですが、実際に情報担当の先生に話を聞くと学校間での差がすごくあるのでは
ないかということでした。

全体で見るとタイピングを含めて扱い慣れている生徒が非常に多くなっている
と思うのですが、逆にほとんどできないような子もいて中学校での取り組みの差が
すごく出てきてしまっている。

数値としては使いこなせる生徒が増えているという印象なのですが、実際には格
差が開いているという部分もあると聞いていますので、そこは先ほどあったように
学校それぞれのデータなどを取りつつやってもらえると良いのかなと感じました。

あとは今まで出てきた話ではないのですが、情報の専門の教員というのが非常に
少ない現状でして本校でも情報専門で採用されているのは2名、それ以外は、他教
科の理科や数学の先生が、情報の免許を取って情報の授業を行っているというのが
現状です。

ただ、今までより専門的な分野に力を入れるようにということで進んできている
中なので、これは市よりも千葉県や国の問題になってくると思うのですが、情報を
教える教員のサポートという部分は、必要であり採用や実際に今免許を持っている
教員にも、研修などが必要になってくると感じているところです。

○逆井委員

先ほどの教員配置の問題ということで中学校でもプログラミングの授業が技術の
時間であるわけですけれども、ただ、技術の免許を持って技術を教えている教員が
中学校にどれだけ配置されているのかは、大きな問題になっています。

免許を持っている技術を専門とする教員が教えている学校と、免許を持っていな
い教員の指導、これが圧倒的に多くなっている現状があるのでなかなか教員、学校

間の格差が埋まらないのが、そこが原因なのかなというふうに感じております。

それから、話が変わるのですけれどもいただいた資料の中で、柏市は色々な取り組みをICTの利活用促進のためにやっていると思います。

1 to 1委員会であるとか、情報活用能力の体系の作成であるとか、先進事例の収集、それから情報リテラシー、情報モラルの育成カリキュラムを作成等が以前から行われています。

同じようなことはこの先も行っていきますと書かれているわけですが、これまでの実践をより普及させていくために、普及の足かせとなっている課題を洗い出してワンランク上にいくためにはもうひと工夫、具体的な取り組みが必要ではないかと思いました。

○毛利座長

9ページの「これからの時代を生きるデジタル人材の育成」というタイトルが何か受け身的な感じがします。

(3) 教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保について

○小田委員

教員の指導力のところのアのグラフに関する事なのですが、他のところはこういう課題があって、どういう現状があって何ができてということが書かれています。

アの部分について資料から読み取れることとしては、数値的には高い水準にあるということで、非常に良いのかなというふうに思いました。

さらに課題として、上の方に書かれていたような、例えば学校間、教員間でのバラつきであったりですとか、あと令和4年度と令和5年度のデータの差の理由や意味のようなものがもう少し整理されると、課題に対して、どのような施策が必要なのかというところにうまく繋がってくるのかなと思いましたので、何かこの分析のところをもう少し充実されると良いと感じました。

○毛利座長

これに対して事務局、御意見ございますか。

○事務局

ここの部分が十分にまだ分析できてないというところがございます、まだ原因の究明に至ってないというのが現状でございます。

また、先ほども申し上げさせていただいたのですが、こちらの調査においても同じような形で分析を行い理由づけ等できるようにしていきたいと考えております。

○佐和委員

この夏に行われる研修について、希望研修ではあるけれども参加人数が少ないという現状があります。

全国的に行われているICTの研修会は、どんな研修でもすごい人数が集まっているんです。

研修会に出ようという意識が高まっている中で、柏市の研修の参加者があまり多くない。ただ内容を見ると、例えば探求的な学びであるとか情報活用能力という研

修はすごく先を行った研修だと思うんです。

以前は、機器の扱い方のような研修が多かったけれども、完全に子供主体の学びをさせようという意思が教育委員会からはっきり出ていると思うんですね。

これはすごく大事なことですし、素晴らしいことだと思うのですが、そうすると、柏の先生たちが考えているICTを活用した授業改善って何なのだろうか。

主体的・対話的で深い学びと書いてありますが、今の授業で主体的・対話的で深い学びだと思っているのかということですね、改善の余地がないのか。

つまり、まだまだ子供に委ねてないんじゃないかということです。

そこは、すごく大きな転換で、今までの授業スタイルを変える勇気がなければ、それは生まれなくて、それがまさに教育DXと言われるものですね。

そこも教育委員会が、こういうところは大事だよというふうに進めていることと、現場の先生たちの意識にまだ差があるように私は感じました。

○毛利座長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

色々な取り組みの方を教育委員会としても考えているところではあるのですが、なかなか先生たちに対して、事務局がうまく伝えられてない部分があるかと感じているところですので、そこにつきましても改善を図っていきたいと考えています。

○毛利座長

こんなにたくさん希望研修をやっていて、すごく良いですよ。

人を集めるにどうしたら良いのか課題なのですが、もっと魅力ある書き方をすると良いかもしれないですよ。

KPIの話は、前回と同じなので、検討していただければと思います。

ここは教員のことなので、教員のことについては、100%でも良いのかなと感じています。

○小田委員

4ページ目の方針というところで、どういうふうに進めていくのかという内容になるかと思うのですがここに書かれていることは、基本的には、今こういうことに取り組んでいるというところが中心となっているように見受けられます。

この方針について例えばこの図1のところをこういうふうな方針として取り組んでいきたいのような現状、どういうことに取り組んでいるということからさらに一歩進んで、こういうことに今後取り組んでいきたい。例えばここを深めていきたいとか。ステップ0からステップ3まであることをさらに学校ごとに浸透させていきたいとか、さらに先の5年間でどういうふうな取り組みをしていくのかという書き方をすることが一つ考えられるのかなと思いました。

そこに関連して7ページ以降、先ほどの課題としていくつかまだ書かれていたことがあったと思うのですが、最初の方の課題として例えば学校間でのバラつきなどが書かれていたと思うのですが、それがこの7ページ以降の方向性の中でどのように課題が解決される方向で、施策が行われようとしているのか、その

課題に対する内容と実際にやることとの一体感と言いますか何かそういうことがもう少し見やすくなると良いと感じました。

○毛利座長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

どうしても今現状こういうふうに取り組んでいますというところを中心に計画の方には記載しておりますので、先ほど委員の皆様から御意見いただきましたように今後、2040年代という先を見据えた形でどういうふうに取り組んでいくかというところを計画の方に今後記載できるように修正していきたいと考えております。

○堀内委員

6ページの指導力向上のところのKPIなのですけれども、指導者用デジタル教科書の活用状況が目標値100%ということですが、現場からすごく使いづらいというような声が上がっているのですね。

私ぐらいの年代の先生にとっては、使いづらいと感じる部分もあるので、その改善点というところもしっかりと対応していただければありがたいと思いました。

(4) 働き方改革と組織・体制について

○毛利座長

今はもうフルクラウドになっているのでしょうか。

○事務局

統合型校務支援システムについては、クラウドにはなっていますが、いわゆる今、国の方で言われているようなフルクラウドというような環境にはなっておりません。

○毛利座長

例えば家から仕事ができるようなロケーションフリーのようなことは、まだ状況としては進んでいないところですか。それは計画に入っているのでしょうか。

○事務局

こちらは、検討していくという形で記載をさせていただいてしております。

フルクラウド化については具体的な部分では、まだ記載しておりませんが、12ページの統合型校務支援システムの導入のところに、国の動向を踏まえ次世代の校務デジタル化についても検討していくという形で記載をさせていただいているところです。

○毛利座長

男性にしても女性にしても、子育て世帯の先生たちが、何時までに保育所に迎えに行かなくちゃいけないとか、残業を助長するわけではないですが、家で少し仕事をしたいという場面があると思うのですが、それを進めるに当たって、柏市の条例等で足かせになっていることはないですか。

○事務局

詳しく状況を把握できておりません。

○毛利座長

今日でなくても大丈夫です。

先ほどから事務局の方に御説明いただいている中で、これは未来に向けての計画なので今、駄目だからここには盛り込まないとかいうことではなくて、令和11年度までこれが進んでいくわけですから、目指す形が必要なのかなと思います。

令和6年度の予算にないからここは盛り込みませんではなくて、5年後、世の中どうなっているかわからないので、国の動向等を踏まえて全体的に未来に向けて明るい魅力的なものになると良いのかなと思います。それが全部達成できるかはもちろん計画ですから限りませんが、何かそういうところもあっても良いのかなと聞いていて思いました。

働き方について学校の先生方、もっとこうなると良いなと思う部分は、何かありますか。

○逆井委員

次世代型というのもあるのですけれども、現状かなり柏市としてICTを活用した働き方改革が推進されているのではないかという実感は私を持っています。

元々の課題として勤務時間が多くなっているというのは、あると思うのですけれども、それはまた別で解決しなきゃいけないことも原因としてあるのではないかというふうに思っていて、ICTを活用しての働き方改革プランについては、概ね進んでいて良い状況にあるというふうに私は考えています。

○毛利座長

課題もあるけれど、これまでやってきた成果もあってそこをもっと伸ばすとかね。今の教育の主流は良いところを褒めて伸ばすということもあるので、ぜひ今までやってきて良いところをもっと膨らますということもあると良いかなと思います。高校はどうでしょうか。

○左口委員

柏市の場合、市立柏高校でもタブレットの方は市から無償貸与いただいているので、非常にありがたく使わせていただいているのですが、ただ小中学校と、システムが違うのか、このアプリケーションを使うのでタブレットに入れてくださいという案内が来たりする時に小中学校はスムーズに入れられるものが、高校のタブレットでは、弾かれてしまうんです。

義務教育じゃないという部分でまた違う部分もあるのですが、そういったところも統一してもらえるとすごくありがたいなと感じます。

○毛利座長

小学校から中学校に上がる時の、要録や学籍は、連携しているということなのでその辺は問題なさそうですね。

○堀内委員

見当違いのことを言っているかもしれないのですが先ほど毛利座長がおっしゃっていた子育て世帯の先生方が、校務支援システムが学校でしか使えないというところもあるので、結局、夜間や土日に仕事をしたりという先生方が多いのが事実です。

別の市では、家から校務支援システムを見ることができるので柏市では見られないんですねと言われたことがありました。

その辺りがうまくできるようになれば、本当は家で仕事はしない方が良いでしょうけども、働きやすさにも繋がったり働きがいにも繋がったりするのかなと思う部分もあります。

○毛利座長

今、文部科学省では、ゼロトラストセキュリティと言って昔は閉じた空間だけで運用してインターネットに出さず限られた中だけで完結してというやり方でしたけど、今は多要素認証システム等でセキュリティが確保できてればどこで仕事をしていても良いとなりつつある。

逆にあまり厳しくすると今度は、USBで情報を持ち出して途中で落としてということがあったりするので、やはりそういう文部科学省から出ているゼロトラストセキュリティ対策を実現してロケーションフリー化を目指しますとか、今のトレンドのことも内容に盛り込むとかですね。

ちなみに柏市の教員採用は、もう柏市だけで完結していますか。

○事務局

県で行っています。

○毛利座長

では、やがては市外に異動ということもあるんですね。

電通に知り合いがいるのですけれども、出社は年数回と言っていました。学校は、そういうわけにはいきませんがやはり成果がちゃんと出ていれば良いみたいです。

(5) ICTの環境整備について

○毛利座長

今年度更新ということですか。

○事務局

令和6年度中に端末を更新いたします。

○毛利座長

これ一番使う点では重要ですね、十分な帯域というのは、1人当たり何メガぐらいですか。

○事務局

当初示されたのは、1人当たり2メガの帯域を確保するということでした。

○毛利座長

現状、それは確保できているということですか。

○事務局

現状、1ギガの帯域保証になりますので、1ギガまで常時使えるというところで帯域は確保できていると考えております。

○毛利座長

以前にいた学校でも外のネットワークは、大丈夫だったのですけれどもアクセスポイントの設定が駄目だったので遅いということがありました。

あとは校内のネットワークに、ハブやスイッチが増えるとどんどん遅くなったりするので、ぜひこの辺りは、運用する上で改善していただければと思います。

○佐和委員

校内でも教室を離れた場所、特別教室とかそういう場所でやはり電波が十分入らない場所が出てきています。

子供の学びを考えた時に、内閣府も出しているようにもう教室だけでとどまるのではなく色々な場所を学習の活動の場にするという方針を受けている中で、できれば校内であれば使えるような環境を整備いただけるとありがたいなと思っています。

それから現在は、低学年と高学年でiPadを使い分けていてこれは全国的にもあまり例のないことだと思うのですが、これをやってきたことにより低学年はiPadに向けた学習場面というのを創造してきたはずです。

今の御説明では、管理面という話があってそれは確かに自分もよくわかります。

2つのOSを持っているというのはなかなか大変なことなのだけれども、これを現場の方に学校側にどう説明をしていくのか。

それから、今までやってきたようなことをどう変えることができるのか、その良さをどう引き継ぐことができるのかというものも含めて変えたとしたらそれは説明であるとか周知が必要になるだろうと思います。

○毛利座長

事務局いかがでしょうか。

○事務局

これまで5年間の積み上げがあると思いますので、その辺りも検討しながらになるかと思っています。

○堀内委員

環境の整備ということで、例えばちょっと広い机があるとすごくやりやすいというところもあります。

できればそういうところも連携して、やってもらえると子供たちも使いやすくなると思います。

○事務局

2つの机にそれぞれパソコンと教科書を置いて授業を受けている様子を見たことがあります。

情報機器だけではなくて、他の部分の環境整備で何ができるのかということに関係課と話し合いたいと思います。

○毛利座長

机を買うのは大変ですけど、アタッチメントで机が広がって押しても向こう行かないようにストッパーがあつたりとか、いろいろ検討いただけると良いのかなと思います。

○左口委員

高校の方は、本当に環境が整っていきまして、県立高校ではW i - F i が繋がらない。

実際、授業を見に行ってもW i - F i を切るのですね。自分の通信でやらないと遅いのでというような環境だったところから比べると、市立柏高校の方は、先ほどお話したように教室のプロジェクターやスクリーンも含めてW i - F i も特に大きな問題なくできているので、そこは非常にありがたいなと感じます。

その環境があるので、授業でも活用しようとなっていくますし、集会などでも使ったりするので、そういった環境整備が整っているために活用できるというのがあるのでそこは高校としては、満足しています。

○逆井委員

私も満足はしております。充電保管庫が学校に設置されていて校内で充電ができる環境にもなっていますし、教室にプロジェクターが常設されていて端末だけ持っていけば、すぐに映せるという手軽に活用ができる環境が整っているかなというふうに思います。

通信速度についても、時々ちょっと遅いと感じる時はあるけれども、それほど今はストレスになるようなことはないと思いますので、現状で随分整備されているかなというふうに思っております。

また、端末はやはり校内でどこでも使えるというのは、私もそれは実現していくべきと感じております。

できれば校外、例えば修学旅行とか林間学校、校外学習であるとか、そういったところに持ち出していけるぐらいの手軽さというのが、今ちょっと重くてなかなかそこまではできないのですけども、校外活動、学習にも活用できるような手軽な端末があると良いかなと感じております。

○毛利座長

最後になりますが、せっかく柏には麗澤大学や東京大学がありますので、ぜひそういった様々な人材を活用していただけたらなと思います。

5 次回開催日時（予定）

令和6年11月18日（月）午前10時から正午